



野田小学校 学校だより

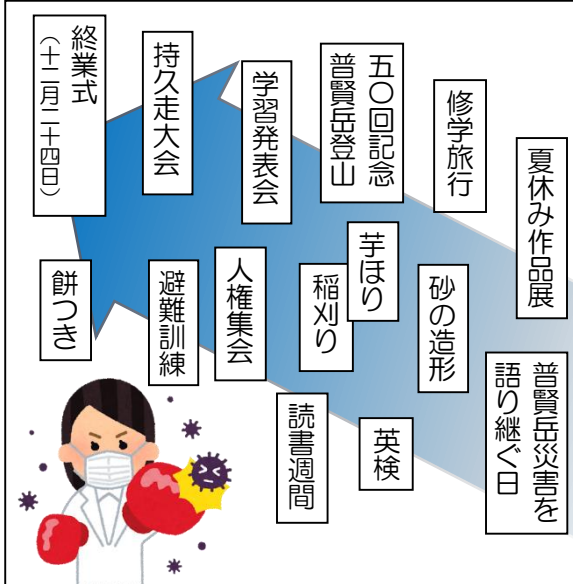
南風の丘から

学校づくりのモットー
明るく楽しく美しく

校長 犬嶋博之

二学期の見通し

何日も続いた豪雨から残暑を過ぎて、コロナ禍の非常事態宣言(本県独自)の中での二学期の始まりです。本来なら文化的な行事が多いこの学期は、季節も爽やかで子ども達の内面をじわーっと育む絶好の学期なのですが…。新型コロナウイルスの状況によつては、内容を変更(場合によっては中止)するものも出てくるかもしれませんが、やれることを一つ一つ、心を込めて実施していきたいと思っておりますので、御理解と御協力をお願いします。



今後のコロナ対策について

今、流行しているコロナ「デルタ株」の感染力は、「三密(密集、密接、密閉)」の内、一つでも密があれば、感染が広がると言われています。そこで本校では次の認識で対策を強化します。

- ▼子どもも感染する。
- ▼ほとんど空気感染に近い。

具体的な取組は「マスクの着用」や「手指の消毒」の徹底のほか、次のことを強化します。

- 換気をこれまで以上に行う。
- ・窓を半分以上開ける。
- ・扇風機を効果的に使う。
- ・教室内の机の位置を最大限に離す。

○感染疑い場合は登校(出勤)しない。

・具合が悪いなど普段と違う時は、自宅待機で医師に相談されるようお願いいたします。

○行事等は状況に対応する。
(教職員や御家族も同様)

・できるだけ実施する方向で準備するが、感染の状況に応じて判断する。

○次の場合は臨時休業を行う。

・一つの学級で複数の児童の感染が確認された場合(学級閉鎖)

・感染者が一人でも濃厚接触者や風邪の症状のある者が複数いる場合

(右の場合、保健所の指導のもと、五〜七日間の臨時休業を行い、複数の学級が対象となった場合は休校とする。(文科省基準による。))

〈臨時休業の場合〉

午前中(給食無し)に、四〜六年生は遠隔授業を行い、一〜三年生(感染関連の児童を除く)は、感染対策を徹底して学校で預かり自習を行うことができたかと考えています。この場合、集団登下校は難しいので、保護者送迎(近隣児童は徒歩)によるものになるかと考えています。

〈コラム あかね雲〉

コロナとの向き合い方

アメリカでホームランを量産する大谷選手には驚きの連続ですが、その打球が吸い込まれる満員のスタンドにもつくづく驚かされます。

アメリカやイギリスのように感染者や死者が再拡大しようとも経済を優先する国もあれば、ニュージールランドのようにたった一人の感染者でロックダウンを実行する国もあります。中国ではプライバシーや人権を国に預けて安全と繁栄を得ていると聞きます。さて、日本は…？

さて、長崎県でも感染者は増減を繰り返していますが、六月一七日以来、死者はありません。本県の医療関係者の方々の御尽力のお陰です。本当にありがとうございます。コロナ感染への向き合い方は地域(国)によってそれぞれですが私は、本県の方々の正しい危機感や確かな技術に学びたいと思います。



《 主な行事予定 》

<9月>

- 1日(水) …始業式、給食開始
- 2日(木) …午前中授業設定日
- 6日(月) …夏休み作品展 ~10日
- 15日(水) …普賢岳災害を語り継ぐ日
砂の造形、海岸清掃
(修学旅行や、その説明会等は、
新型コロナ対策関連で、当初の
予定から変更する場合があります。)

<10月>

- 5日(火) …朝マラソン開始
- 7日(木) …避難訓練
- 15日(金) …第50回記念普賢岳登山
- 26日(火) …2年生授業参観

《心に響いた言葉》

「おはようございまーす！」リモートミーティングの時の画面の向こうからの挨拶から。ちなみに、一番速く接続して待っていてくれたのは、4年生の永野君でした。嬉しかったよ！



シリーズ「令和の日本型教育」とはなんぞや？
〈第四回〉

「義務教育九年間を見通した教科担任制」について

今回は「教科担任制」についてです。現在でも「専科の先生」という呼び方をしている理科や体育の授業を主に受け持ってもらっている場合がありますが、今回は中学校まで枠を広げて積極的に連携しようということに違いがあります。文科省の資料にねらいが次のように記されています。

- ・義務教育九年間を見通した指導体制の構築
- ・教科指導の専門性を持った教師によるきめ細やかな指導の充実
- ・教師の負担軽減
- ・教科の特性や学校規模・地理的条件に応じた効果的な指導体制の充実
- ・小中学校の連携促進

これらの他、次のようなことも効果として期待されています。

- ・複数の教員で児童を多面的に見ることにより、児童理解が深まる。
- ・小中学校の連携で中一ギャップ等を緩和する。

対象となるのは、高学年の外国語、理科、算数、体育とされています。

〈本校の場合はどうなるか？〉

今、本校では、学級の教科授業のうち「書写」や「理科」「音楽」「図工」などから一つまたは二つの教科を学級担任以外の「専科」の先生や教頭先生が受け持っています。この「コマ数」を引いて、一人の先生が受け持つ授業の「コマ数」は、平均して一週間当たり二十三〜二十四コマ（一週間は三〇コマ）になっています。（一昔前までは、職員会議以外は全部が授業で埋まっていたこともあったが…）このような状態ですので、どうしても授業の準備が「広く・浅く」なってしまいます。このことから、先生たちは授業の準備を家に持ち帰ってやっています。時期によっては、今でもそのようなのですが、令和二年度からは、さらに次のことが求められるようになりました。

- ・これからの社会の変化や児童の多様な実態に対応するための授業の充実（他学年の内容や学習指導要領に示されていない内容も教えるなど）
 - ・働き方改革（超過勤務の削減、業務の仕分けなど）
- そこで、もし教員を一人多く配置（加配）言います）された場合は、次のようになります。

- ・受け持つ教科が一つ減って、他の教科の準備にかける時間が増える。
- ・受け持つコマ数が約四コマ減って、教材研究等にかける時間が増える。

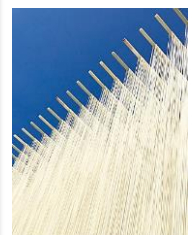
この実現には、莫大な財源等が必要なのですが、米百俵※の英断に期待したいところです。

※「米百俵」：明治初期、窮乏に救済の米を送られた長岡藩は、その米を生かし、未来のために学校を創ったという実話。



「素麺（そうめん）」

ふるさとの文化・歴史・人物——野田小教育の視点から
本市の手延べそうめんがシンガポールに輸出されるというニュースを見ました。



上村製麺は一九七二年に創業し、全国二位の手延べそうめんの生産量を誇る同市で高品質の製品を生産。年間生産量は八千ケース。だがその多くは地元素麺組合を経由して県内外に出荷しているため独自製品はなかった。

同社は「下請け構造」から脱却を図るとともに、在留邦人も多く、そうめん需要が見込まれるシンガポールへの輸出を決意。（中略）品質・衛生管理の高度化を図り、顧客ニーズを満たす商品を海外市場に展開し、輸出拡大に取り組む。（長崎新聞から）

本市内には他に、小麦から自社で作っているこだわりの製麺会社もあり、どんどん世界が広がっていて勢いを感じます。ワクワクしたので思わず取り寄せて食べてみましたが、これが美味！世界に広がる素麺の可能性！あとは、次の世代の担い手が求められます。

【お知らせ】コロナ対策関連

新型コロナウイルスの蔓延には頭を悩ませており、「修学旅行」や「砂の造形」「おやじの読み聞かせ」などについては、新型コロナウイルス対策に関連して関係各所と協議をしているところです。正式に決まりましたらお知らせしますので、もうしばらくお待ちください。